

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：32671

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02380

研究課題名(和文)バレエ音楽のアーカイブ化に関する基礎的研究

研究課題名(英文)Basic Studies on the Archiving of Ballet Music

研究代表者

森 立子 (Mori, Tatsuko)

日本女子体育大学・体育学部・教授

研究者番号：40710843

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「バレエ音楽に特化したアーカイブ」を構築するために必要な基礎作業を行った。まず、主要バレエ作品について、1. 楽譜資料の所蔵状況調査、2. (入手可能な)異なるバージョンの楽譜の比較検討を行った。また、バレエ音楽を基にした編曲作品の実態を明らかにすべく、特徴的な作品例を抽出し分析を加えた。一方、舞台音楽に特化した専門図書館の例として、英国ロイヤル・オペラ・ハウス(コヴェントガーデン)音楽ライブラリーの訪問見学を行い、その際にライブラリー主任のトニー・リッカード氏へのインタビューを実施した。これらの成果を基盤に、今後さらにアーカイブモデルの作成にむけて作業を進める予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、バレエ音楽に関する資料、特に楽譜を網羅的に収集するアーカイブの構築を前提として作業を開始した。そしてその作業の過程で、個々の上演の条件に合わせて作られたバージョンが無数に存在すること、アクセスの難しい資料(個人蔵等)も多く存在すること等、アーカイブ構築の際に生じる複数の問題点を整理することが出来た。これらの問題点が明確になったことにより、バレエ音楽関係資料の「総体」のどの部分を選択してアーカイブ化するべきかという次段階の課題の抽出に至り、アーカイブの具現化へ向けてのさらなる一歩を踏み出すことが出来た。

研究成果の概要(英文)：In this study, I performed the groundwork necessary to build an "archive dedicated to ballet music". First of all, I conducted a survey of the main ballet works, 1) researching the possession of the musical score materials, 2) comparing the musical scores of different (available) versions. In addition, I have extracted and analyzed characteristic examples of arrangements based on ballet music. Furthermore, as an example of libraries specializing in stage music, I visited the music library attached to the Royal Opera House (Covent Garden) and interviewed the Music Library Manager, Mr. Tony Rickard. Hereafter I intend to work towards the creation of an archival model.

研究分野：西洋舞踊史 西洋音楽史

キーワード：バレエ音楽 アーカイブ バレエ

1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで、18世紀フランス語圏の舞踊理論、および(舞台作品を中心とした)音楽を対象に研究を進めてきた。「バレエ音楽」も研究テーマと深く関わることから、主に図書館等を活用しながら必要となる資料(楽譜等)の収集を行う機会もあったが、ことバレエ音楽に関しては、作品に関する重要な情報が必ずしも一か所に集約されていないことも多く、それが作品の理解を阻む一つの要因となっていた。

例えば、バレエ音楽の場合、同じ作品であってもその都度の上演に合わせて、比較的自由に改変が加えられるということがある。サンフランシスコ・バレエ団専属オーケストラの常勤ライブラリアン、マシュー・ノーティンは、バレエ音楽とは「常に変化する生きた創造物」であると述べている。すなわち、バレエ音楽においては、(西洋の芸術音楽の領域では一定の価値が置かれる)「原典版」を重視する意識は希薄であり、上演の際の諸事情に応じて、大なり小なり手が加えられることがむしろ一般的である。

このような改変は、様々な理由に基づいて行われる。作品のストーリー解釈の変更に伴い曲の順序を入れ替えて演奏する場合、主役級のダンサーが見せ場を作るために自分の十八番を挿入するよう要求する場合(その際には、場合によると別の作曲家の曲が挿入されることになる)など、他にも多種多様な理由から、既存の作品のあらゆる部分に手が加えられていくのである。そしてそのような改変を加えられた後にも、依然としてそれは、同一の作品名の下にカテゴライズされる。したがって、言わば膨大な「異稿」の総体が、一つの「バレエ音楽作品」として存在している、ということになる。

こういった状況にあっては、バレエ音楽の個々の楽譜資料を、それぞれ単独のものとして扱うにとどまっていたのでは、決して十分ではないことが理解されるであろう(しかし現状では多くの楽譜資料がそのような状態にある)。「常に変化する生きた創造物」たる「バレエ音楽作品」を理解するためのツールとしてアーカイブを機能させるためには、ある「バレエ作品」に関わる楽譜資料の存在の全体像を把握した上で、それらのデータを相互にリンクさせ、各資料間の異動について一覧できるような検索システムの構築が望まれる。

またこれと並んで、個々の楽譜資料の書誌データの項目数を、バレエ音楽の特殊性に配慮して拡大する(例えば、幕間劇として上演されたバレエであれば、どういった作品の幕間劇として上演されたのかを明示する、など。また、出演した主要ダンサー名なども重要なデータと考えられる)ことも必要である。さらに、バレエ音楽が基本的に舞台上演を前提に創作されるものであることを考慮するならば、対象となる作品の舞台上演に関わる諸要素のデータ(台本、舞踏譜、演出メモ、舞台美術、など)と楽譜に関する書誌データとを、相互に参照出来るような仕組みも求められよう。

以上のような問題意識に基づき、本研究はその基盤を築くための作業として計画されるものである。

2. 研究の目的

先述のとおり、バレエ音楽作品が成立する過程には、他の音楽ジャンルとは異なる慣習も存在しており、その特殊性を考慮せずに単純に他のジャンルと同じ手法でバレエ音楽を扱うならば、アーカイブとしての有用性が減じられる事態にも陥りかねない。よって本研究では、「バレエ音楽に特化したアーカイブ」の構築を将来的な目標に据えつつ、まずはそのための問題点の洗い出しという基礎作業を進めることとする。具体的には、特に18~19世紀の主要バレエ作品につい

て、作品の成立・伝承の過程、楽譜の所蔵状況、ヴァージョン間の異同等について調査し、アーカイブ構築を目指す際にどのような点に留意すべきかを明らかにすることを目指す。また、これと並行して、世界の主要なダンス・アーカイブの視察を行い、ダンス・アーカイブにおけるバレエ音楽所蔵の方法について情報を収集する。

3. 研究の方法

(1) 18世紀～19世紀バレエの主要レパートリーについて、国内外の音楽図書館における楽譜（および関連資料）の所蔵状況を確認する。また、ペトルッチ楽譜ライブラリーを始めとするデジタルライブラリーについても同様に調査する。さらに、市販のものも含め、現時点で入手可能なバレエ音楽の楽譜については、必要性の高いものから順次収集を進める。

(2) 資料状況を考慮した上でモデルケースとなるバレエ作品を選定し、これについて、a)その成立の過程、b)初演および再演の状況、c)作品伝承の経緯を、関連する一次資料、二次資料を参照しつつ整理する。またその上で、現時点で入手可能な楽譜がどの時点で作成されたヴァージョンを反映したものであるのかを確認するとともに、それらの比較を通じてヴァージョン間の異同を明らかにする。

(3) バレエ作品を基にした編曲作品の例を、主にフランス国立図書館所蔵作品オンラインカタログを活用しながら抽出し、特徴的な作品についてはその分析を行う。

(4) 世界の主要なダンス・アーカイブの視察を実施し、どのようなバレエ音楽がどのような形で所蔵されているのかを調査する。

(5) バレエ音楽、およびバレエ史に関する情報交換の場として、「バレエ史研究会」を定期的に開催する。

(6) 上記の作業から得られた知見を総合的に検討することにより、バレエ音楽に特化したアーカイブの構築に際してどのような点が問題となりうるのかを考察する。

4. 研究成果

(1) 2018年4月以降、6回にわたり、最新の研究成果の発表および情報交換の場として「バレエ史研究会」を開催した（発表者〔敬称略〕：第1回 永井玉藻、平野恵美子、第2回 高島登美枝、大河内文恵、第3回 松澤慶信、森立子、第4回 赤尾雄人、第5回 稲垣宏樹、第6回 斎藤慶子）。研究代表者は、マシュー・ノーティン『バレエ音楽 Ballet Music』（Rowman & Littlefield, 2014）の文献紹介を行い、さらに本研究の一環として研究会の有志メンバーと試験的に進めていた「バレエ音楽アーカイブプロジェクト」についての報告を行った。また、第5回の研究会では、バレエ指揮者で自らバレエ音楽の編曲も手がける稲垣宏樹氏を招聘し、「バレエ指揮者の仕事、ならびにバレエ音楽のオーケストレーションの諸問題」という題目で講演していただいた。同氏は講演において、信頼できる楽譜の重要性や、バレエ音楽の楽譜入手の難しさについて指摘、また自身がバレエ音楽の編曲を行う際にどのような形で過去のオーケストレーションを参考にするのかについて具体例を挙げて説明された。この講演を通じ、本研究の問題意識ともリンクした非常に有益な情報を得ることが出来た。

なお、「バレエ史研究会」で発表された情報を広く一般に共有するために、2018年11月より同研究会ホームページを開設している（<http://ballet-history.sub.jp>）。研究会における発表内容の概要は、このホームページ、および研究代表者名義のSNS上で公開している。

(2) 上記研究会の有志メンバーとともに、主要バレエ作品について現存楽譜の情報収集を進め、《白鳥の湖》と《海賊》の二作品に関してはデータベースの試作を行った。そしてこの試

作業を通じて、具体的に多くの問題の存在が浮き彫りになった。例えば、挿入曲の作曲家や編曲家をどのような項目で扱うか（すべてを「作曲家名」で一括りにした場合、作品によっては膨大な数の作曲家名がこの項目に並ぶことになる。また「編曲家」についても、どの程度の編曲を行った場合に「編曲家」と見なすのかという問題が生じる）、個人蔵の楽譜（個人的な関係を通じて伝承されている楽譜も少なくない）の情報をデータベース化するべきか否か、各バージョンに関する情報の齟齬（情報源間の異同が多数認められる）をどのように扱うべきか、等、様々なレベルの問題が存在することが明らかになった。これらの問題の詳細については、今後大学紀要等の媒体に発表することを予定している。なお、バレエ音楽アーカイブを実際に構築する際には、これらの問題を認識した上で、その一つ一つについて合理的な判断基準を定める必要が生じる。本研究を引き継ぐ研究課題においては、この点についての検討を含める予定である。

（３）バレエ音楽の受容において編曲作品の果たす役割を看過することは出来ないため、本研究ではバレエ音楽を基にした編曲作品にどのようなものがあるのか、主にフランス国立図書館所蔵作品オンラインカタログを活用しながら特徴的な具体例を抽出する作業を行った。編曲作品の中では、アマチュアの演奏を前提として創作された器楽リダクション譜が最も大きな割合を占めるが、それ以外の演奏形態による作品の存在にも注目しておく必要がある。その一例として、《ジゼル》初演（1841）の同年に発表された《ジゼルあるいはウィリたち 歌曲》と題された声乐ソロ（ピアノ伴奏、ギター伴奏）作品が挙げられる。研究代表者はこの作品について、特に「新規に創作された歌詞」と音楽との関係に注目して分析を行い、その考察結果を大学紀要に発表した。

また、調査の副次的な成果として、J.F.F.ブルグミュラー（今日では入門期のピアノ学習者用教則本の作曲家として広く知られるが、彼はまた《ジゼル》の挿入曲も手がけている）が、舞台作品および舞台作品を基にした編曲作品を大量に創作していることが明らかになった。これに関する調査結果も大学紀要に発表している。

（４）2020年2月、英国ロイヤル・オペラハウス（コヴェントガーデン）音楽ライブラリーの視察を行った。オペラハウス内に設置されている同ライブラリーは、オペラ、バレエ上演のための楽譜の準備作成を行うことを主たる任務とする機関であり、同時に舞台芸術に特化した音楽図書館（原則として非公開）でもある。その視察にあたっては、音楽ライブラリー主任トニー・リッカー氏の案内で楽譜作成の様子、および楽譜所蔵庫を見学させて頂いた。またその上で、楽譜保管の方法、保存楽譜の選定の原則、バレエ音楽の楽譜作成にあたっての注意点、問題点等についてのインタビューを実施することが出来た。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 森立子	4. 巻 第2巻
2. 論文標題 歌われる《ジゼル》 バレエ音楽の編曲をめぐる一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本女子体育大学 大学総合研究	6. 最初と最後の頁 25-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森立子	4. 巻 第1巻
2. 論文標題 ブルグミュラーと舞台芸術：フランス国立図書館所蔵作品について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本女子体育大学 大学総合研究	6. 最初と最後の頁 143-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 森立子
2. 発表標題 ノヴェールのバレエ作品をめぐる
3. 学会等名 オペラ学研究会第28回例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

バレエ史研究会ホームページ (<http://ballet-history.sub.jp/>)

書評：森 立子「井口淳子著『亡命者たちの上海楽壇 租界の音楽とバレエ』」『舞踊學』第42号(2019)72～73頁。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----